

問 1

栽培法の異なる桃 A と B について消費者の好みを比較したい。すでに非破壊計測で、桃 A は、桃 B より糖度が高いことがわかっている。一般の消費者 30 人をパネルとして、7 段階尺度を用いて、官能評価を行った。データに t 検定を適用したところ、有意差はみられなかった。そこでパネルの人数を 100 人に増やして、再度、同様に実験を行ったが、やはり、有意差はなかった。このような結果から、あなたは何を考えますか。考えられることをいくつか述べてください。

問 2

動的官能評価法

Temporal Dominance of Sensations (TDS) 法

Temporal extension of Check All That Apply (TCATA) 法

の両者の利点と難点を比較し、手法を説明してください。

問 3

官能評価は人間を対象とする研究手法であり、医学研究の倫理的原則であるヘルシンキ宣言に則って行われるものである。この宣言の採択の成立の経緯とその要件を述べてください。